

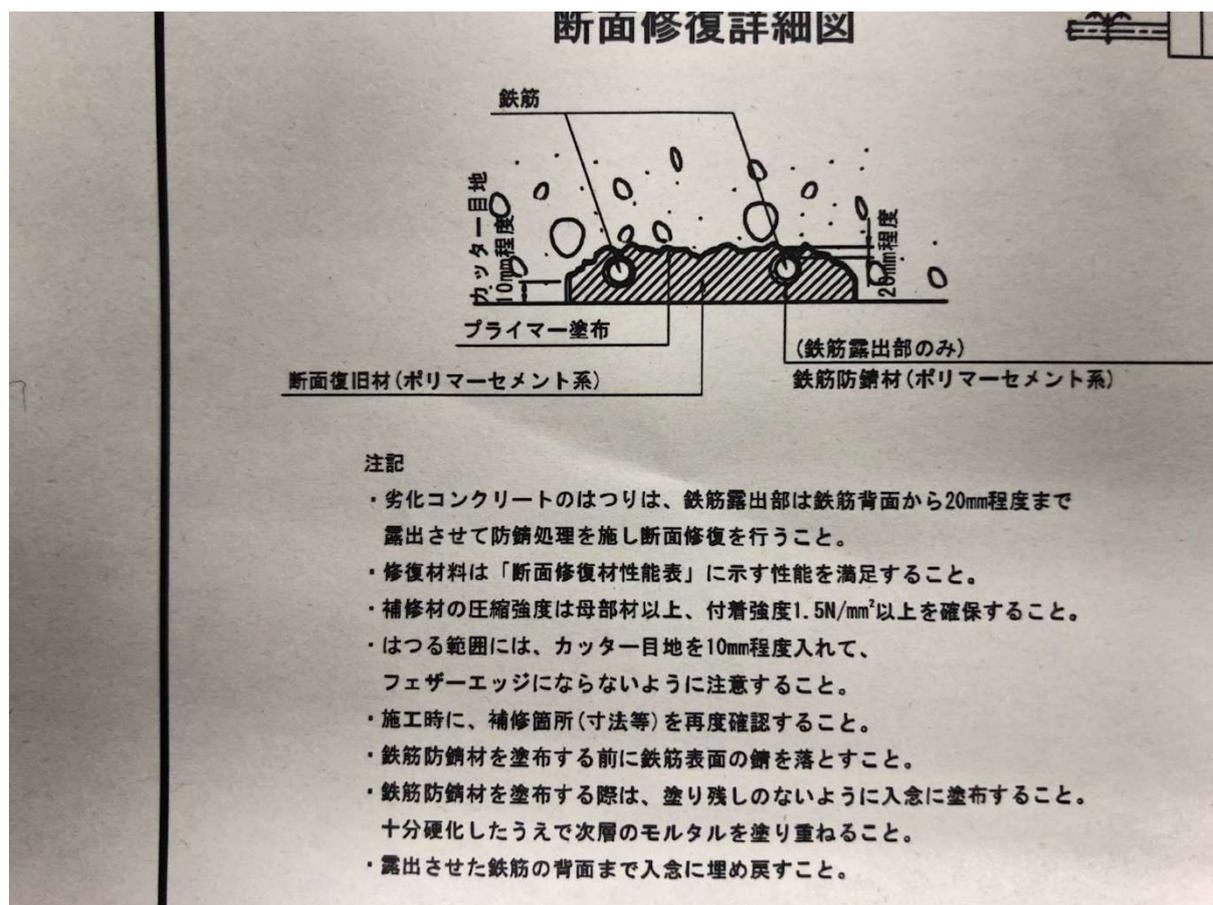
2020年8月27日

話題提供 : 断面修復工法におけるはつり深さの考え方について

質問者: 坂田正宏氏 (福井県)

質問内容: 以下の通り

- ・断面修復時の既存のコンクリートをハツル際に、  
「①鉄筋の裏の数センチまで必要な場合」と「②鉄筋の表面まででよい場合」  
の判断の考え方をお教えいただきたいです。
- ・私の検査時の経験では、図面(添付1枚目)では鉄筋裏の2センチ程度はつる表示になっていても、受注者が協議なしで「コンクリートが健全だったので鉄筋表面で止めた」と言うことが複数回ありました。



- ・長期的な、断面修復材の既存コンクリートとの一体性や境目からの劣化を考えると裏まではつった方が良くと考えますが…。『コンクリート工学 2019.5 月』 p330(添付2枚目)に床版打ち替えの場合の事例で、鉄筋部で打ち替えたものが相対的に早期に劣化した事例があります。



写真-3 増厚層と既設 RC 床版間の土砂化



写真-4 上段鉄筋位置で打替えた床版 (劣化)



写真-5 上段鉄筋下側まで打替えた床版 (健全)